

宮城県仙台市における保育現場の新型コロナウイルス感染症対策の現状について（第1報）

小 田 幹 雄 幼児教育科
橋 浦 孝 明 小田原短期大学 通信教育部

（2020年10月15日受理）

〔 要 約 〕

現在、新型コロナウイルスの影響により、保育者は日々の保育に苦慮している。そこで、本研究では仙台市を中心とした地域の幼稚園・保育園・認定こども園を対象としてアンケート調査を実施し、保育の現状や、対応、工夫、配慮等をまとめ、保育者が少しでも安心して保育と向き合うための基礎資料の作成を目的として行った。その結果、①各園で新型コロナウイルス感染症対策を考え実施しているため、対応には幅がある。②新型コロナウイルス感染症への対応を決定するための情報は各園で複数の媒体から積極的に収集している。③幼稚園・保育園・認定こども園など業種を超えた情報共有はなされていない。④今まで通りの保育を営むことに難しさを感じている園が多い傾向があるということが明らかになった。今後は、より保育の日常への配慮・工夫等を業種・地域を超えて情報を共有できるように、調査内容と調査範囲を広げ、各園をつなげるパイプ役を担いたい。

1. はじめに

2019年12月に新型コロナウイルス感染症（COVID-19）が中国で発生し、WHO（世界保健機関）は3月11日、パンデミック（世界的大流行）に相当すると発表した。その後、世界全体で感染者数は5000万人、死者数は100万人を超える等、今なお感染拡大の勢いは衰えていない¹⁾。日本国内でも感染拡大を防止するために、4月7日に緊急事態宣言が発令されたが、解除された現在も国全体が極度の緊張状態の中での生活を強いられている。

しかし、「STAY HOME」や「SOCIAL DISTANCE」、「テレワーク」や「三密の回避」といった今の社会で常識となりつつある言葉も保育現場では空疎な注意喚起なのが実情である。新年度開始当初、保育現場では大多数の園が「家庭等での保育が可能な場合には、できる限り登園を控えていただく」という登園自粛要請を保護者にしていたが、緊急事態宣言下でも働きに出ざるを得ず、祖父母にも協力をお願いできない親のために子どもを受け入れていた。また、保育中、常に園児と保育者、園児同士の距離を取るの難しく、未満児は玩具等を口に入れてしまう、保育者の少ない朝夕は年齢やクラスに関係なく入り交じって過ごす等、園生活において三密を避けるのは難しく、感染リスクとは常に隣り合わせである。

日本全体が長期間にわたって感染拡大を防ぐために、

飛沫感染や接触感染、さらには近距離での会話への対策を、これまで以上に日常生活に定着させ、持続させる「新しい生活様式」²⁾に取り組んでいる中で、保育現場も生活や活動等、様々な面で過渡期に差し掛かっているといえる。

中でも宮城県仙台市については、東北の都市の中で最も新型コロナウイルス感染者数が多く、死亡例もあるため、保育現場でもきめ細やかな配慮が予想される。

また、橋浦・岩村³⁾によると、東日本大震災時の各園は独自に戸外の使用制限などを設けていた結果、屋外での遊びの伝承が途切れたと報告している。このことから新型コロナウイルス感染症に伴う保育の変化により、子どもに何らかの影響が出ると考えられる。

そこで、本研究では仙台市を中心とした保育の現状や、対応、工夫、配慮、子どもの様子等をまとめ、保育者が少しでも安心して保育と向き合うための基礎資料の作成を行った。

2. 研究方法

日 時：8/5～8/28
対 象：無作為に抽出した、仙台市内及び近郊の保育所（園）60園、幼稚園40園、認定こども園20園（回収率25.8%）
方 法：郵送にて調査協力を呼びかけ、無記名型記述式アンケートを実施し、回収は

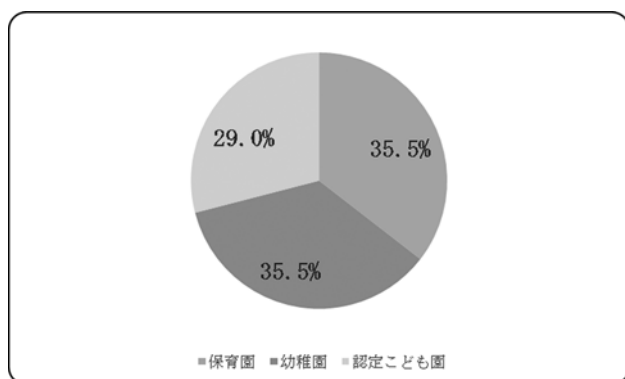


図1. 所属施設について

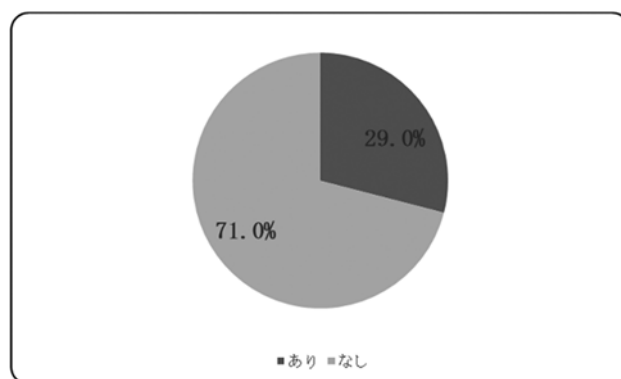


図3. 看護職の配置

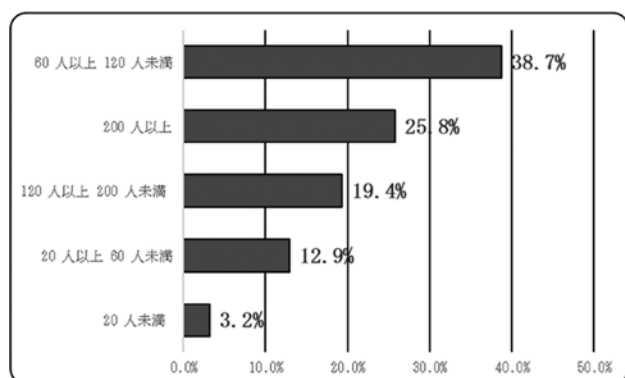


図2. 園児数について

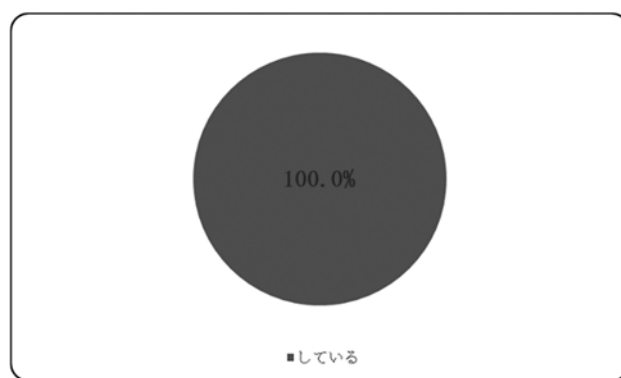


図4. 施設の消毒

Googleフォームを使用した。調査項目については巻末参照。

統計処理：統計処理には、Microsoft Office Excel 2019を使用した。

倫理的配慮：調査対象には調査の趣旨を伝え、得られた結果は研究以外で使用しないことを保証し、厳重な管理のもと保管および使用した。

尚、自由記述の項目に関しては回答者の意思を尊重し、原文のまま掲載しており、誤記等については敢えて修正していない。

3. 結果

1) 属性

今回調査に協力いただいた施設は図1のように保育園35.5%、幼稚園35.5%、認定こども園29.0%とおおよそ3割ずつとなった。

園児数については、図2のように60人以上120人未満が最も多く38.7%、次いで200人以上が25.8%、120人以上200人未満が19.4%、20人以上60人未満が12.9%、20人未満が3.2%と続いた。

看護職の配置については、図3のように全体の29.0%であった。なお、配置されていたのは保育所及び認定こども園のみである。

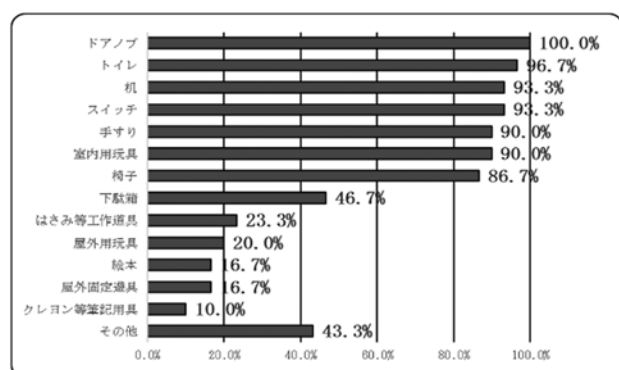
2) 消毒に関して

施設の消毒に関しては、図4のように100%行っていた。また、消毒を行っている範囲は、図5のようにドアノブ、トイレ、机、スイッチ、手すり、室内用玩具、椅子について80%以上実施されており、それ以外は施設毎にかなりのばらつきがあった。

消毒の頻度は図6のように、日に2回が最も多く39.3%、次いで園児降園後1回が21.4%となったが、消毒の対象物によって頻度が違うという回答も複数あった。消毒時の薬品は図7のようにエタノール、次亜塩素酸水、次亜塩素酸ナトリウムの3種類に絞られ、それぞれ3割程度であった。

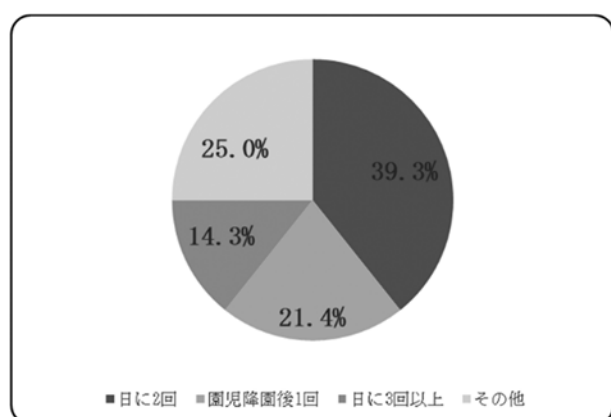
3) マスク着用に関して

保育者のマスク着用状況については図8のように、61.3%が義務付けており、義務付けていないのは3.2%だけであった。保育者のフェイスガード着用に関しては図9のように約8割の施設で着用していなかったが、



その他…窓、インターフォン、門扉、窓の枠、廊下、電話、保育室、通園バス
簡易ベッド（午睡用ベッド）、職員室内の電話機、教護室内全体

図5. 消毒の範囲



その他…物によって頻度が違う

日に1回 清掃後や児童のいない時間帯に実施
玩具類は、クラス内で一回は必ず、その他共有部分は、日に三回は行う
降園後は必ず行い、その他に必要なに応じて日に数回行なっている
園児の登園後と午睡後
物やドアノブ等、それぞれの対象物によって消毒の回数を変えている

図6. 消毒の頻度

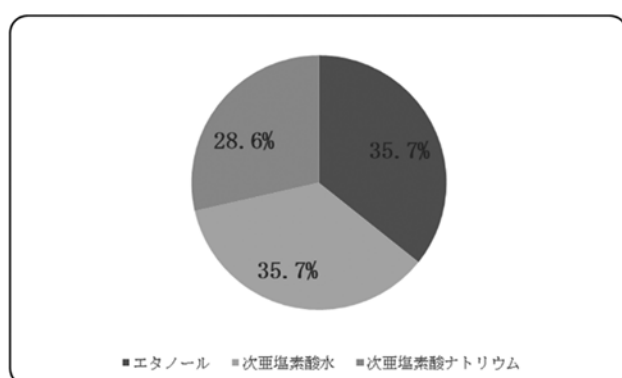
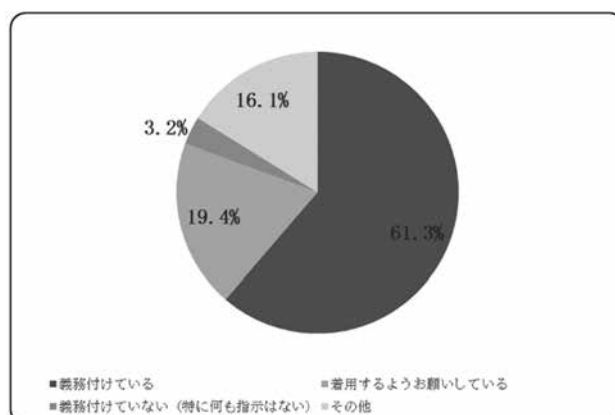


図7. 消毒時の薬品



その他…着用するようにはしているが、外す指導もしている。

基本的に着用するようにはしているが、暑さがひどい時など活動によっては外すこともある
ソーシャルディスタンスがはかれる場合や園庭等でははずしている。
食事中、戸外時、水遊び、運動活動以外は常時マスク着用必須

図8. 保育者のマスク着用状況

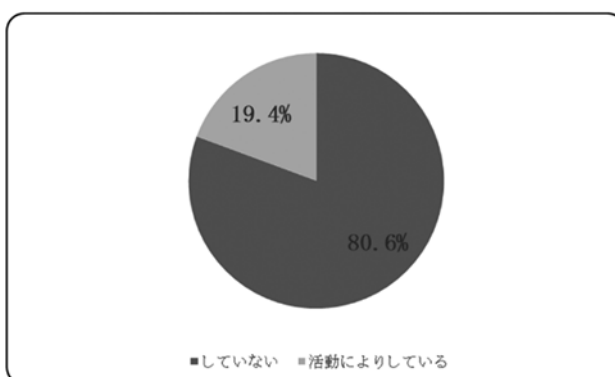
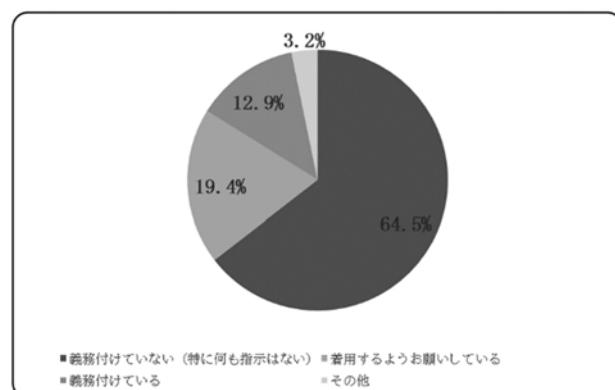


図9. 保育者のフェイスガード着用について



その他…着用するようにはしているが、外す指導もしている。

図10. 子どものマスクの着用状況について

約2割の施設では活動により着用しているようである。

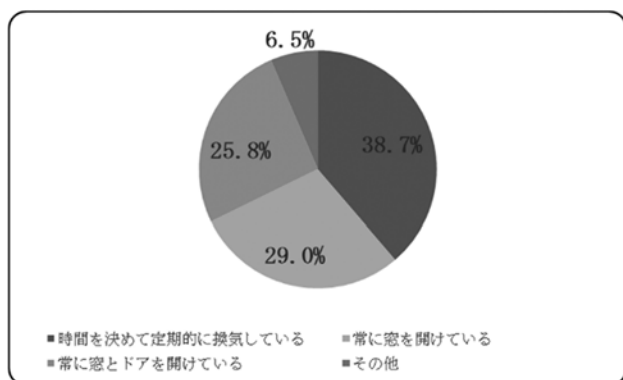
子どものマスクの着用状況については、図10のように、保育者とは反対に義務付けていないが64.5%で、着用するようお願いしている、義務付けているは合わ

せて30%程度となった。また、マスクを取りたがる子どもへの対応としては、表1のように場所や活動により外すという意見が複数あった。

表1. マスクを取りたがる子どもへの対応

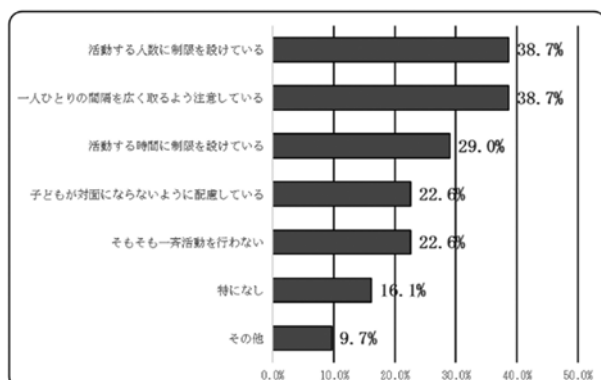
マスクを取りたがる子どもへの対応（自由記述）

マスクをはずして行う活動を定めている。
 外遊びの時は、はずしています。室内はできるだけ、つけています。
 活動内容・場所によって外した子供に分かりやすい言葉でつけるように話している。
 室内で活動するときには、マスクを着用するように声がけをし着けさせる。
 外遊びと食事の時以外は着けるように声がけしている。
 外遊びと食事の時だけははずしている。
 対象年齢は3歳以上児とし、外している場合には無理強いはさせない。
 その時は、状況に応じてその都度対応している。



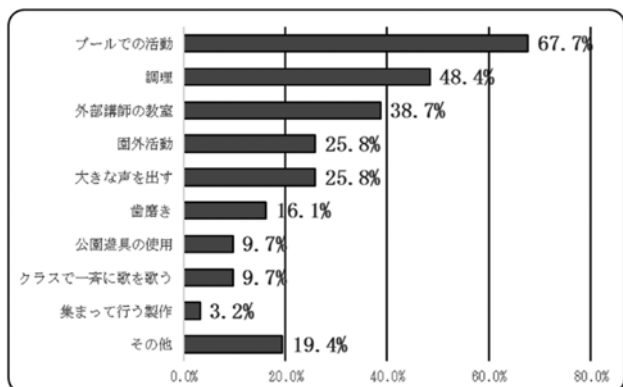
その他…いつも開いている。
 冷房に関して、冷えがなくならない程度に、少し開けて換気しています。

図11. 保育中の換気



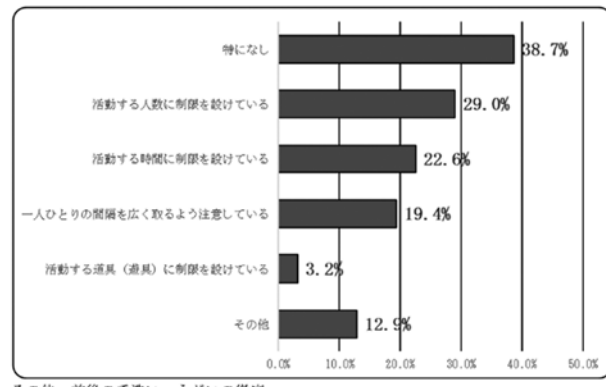
その他…子どもたちに細かく伝えて、遊びが滞ることもあるため、遊びの選択を増やし、一ヶ所に固まらない配慮をしている
 2クラスなどの大きい集団にならないよう気をつけている

図13. 屋外で一斉活動を行う際の新型コロナウイルス感染症対策



その他…無い
 子どもたちによる給食の配膳
 全園児が一堂に会すること。
 3歳以上児による配膳活動
 全体での集会

図12. 日常の保育活動で控えている活動



その他…前後の手洗い・うがいの徹底
 子どもたちに細かく伝えて、遊びが滞ることもあるため、遊びの選択を増やし、一ヶ所に固まらない配慮をしている
 人数や時間を制限するというより、遊びの種類を増やし自然に子どもが分散するように工夫している。
 ひとつの場所に密集しないようにしている

図14. 屋外で自由遊びを行う際の新型コロナウイルス感染症対策

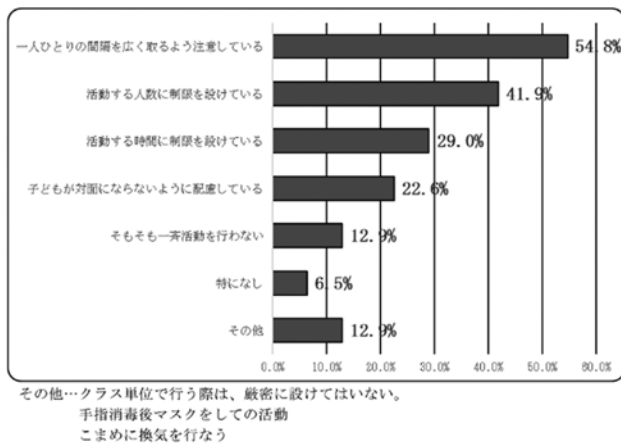


図15. 室内で一斉活動を行う際の新型コロナウイルス感染症対策

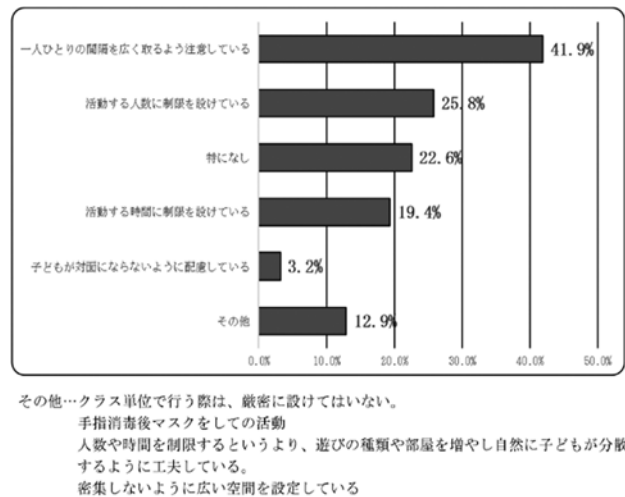


図16. 室内で自由遊びを行う際の新型コロナウイルス感染症対策

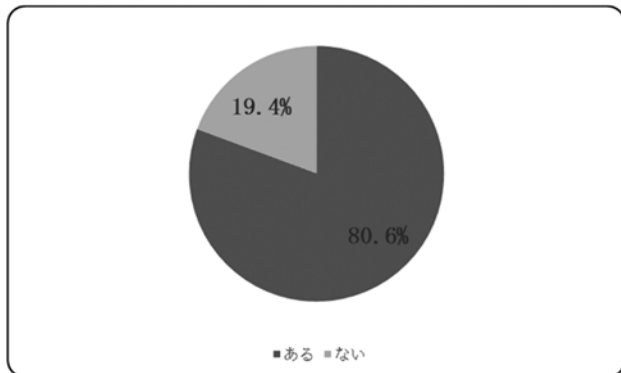
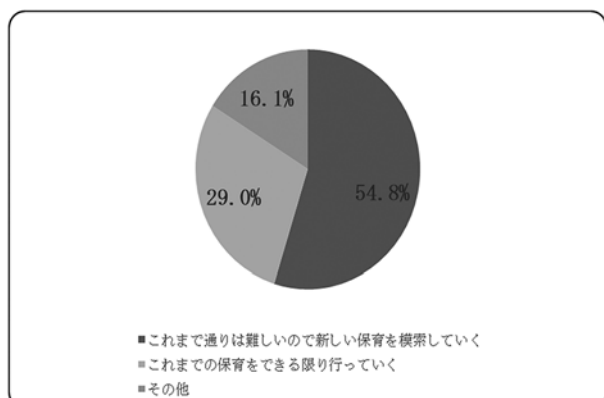


図17. 新型コロナウイルスの影響により開催を中止もしくは今後中止を検討している行事

表2. 中止もしくは中止を検討している行事

中止もしくは中止を検討している行事など（自由記述）
7月キャンプ（1泊）
4月 入園進級式 6月 親子遠足 5月 保育参観懇談会
春の懇談会、親子遠足、未満児運動会
5月 あおば祭り参加 6月 保護者懇談会
親子遠足 5月、参観懇談・観劇会 6月、お泊り会 8月、その他各交流会
遠足 9月、運動会 10月、クリスマス会 12月
運動会
発表会 12月
保護者参加の誕生会（毎月）、保護者の保育士体験（毎月）、懇談会（5月）、夏祭り（7月）、巡回指導（2か月に一度）、運動会（10月）、クリスマス会（12月）
園外保育→通年 他施設との交流活動→通年
前期懇談会中止、親子遠足中止（園児のみ近隣の公園へいく）、運動会縮小、夏まつり園児のみ
運動会：9月 発表会：11月
親子遠足 10月
遠足（保護者参加5月）
親子運動遊び大会 6月、水泳教室 7月
4月 入園・進級式 遠足 毎月 キッキング
保護者参加行事：5月遠足、7月夏祭り、9月運動会、その代わりに夏祭りと運動会は職員と園児のみで内容を簡素化して実施
その他、保護者参加の保育参加（参観のような体験型行事）の中止6月～8月
保護者1日保育士体験（希望者のみ参加：6月～2月）：中止
保育参観、クラス懇談、お泊り保育園
親子遠足（5月）、保育参観（6月）、七夕地域交流（7月）
5月 遠足 10月 未満児遠足
夏祭り 7月、運動会は体育館内のため中止 9月



その他…上記の中間で、安全を確保しつつ、どのような保育が行えるか考えながら進めていく
 児童の成長に必要な事は何かを話し合いながら常に保育している
 これまでの保育を基本としながらも、変更、対策が必要などころなどを検討しながら進める
 これまでの保育を基本としながらも、変更、対策が必要などころなどを検討しながら進める
 どちらも同じくらい考えていかなければならないため、どちらが強いと言えない

図18. 今後の保育の方針

表3. 今後の保育方針とその理由

今後の保育方針	理由（自由記述）
これまでの保育をできる限り行っていく	子どもの日常が保育の大原則だから。
これまでの保育をできる限り行っていく	実施方法は検討するが、保育の柱は保持する。
これまでの保育をできる限り行っていく	制限はされると思うが、できるように工夫してやってあげたい。
これまで通りは難しいので新しい保育を模索していく	これまで通りはどうしてもむりがあるので、人数・場所・方法をその都度考えて行う。
これまで通りは難しいので新しい保育を模索していく	コロナウイルス感染症が早くなくなってほしいが、そうそう早くならないと思われますので。
上記の中間で、安全を確保しつつ、どのような保育が行えるか考えながら進めていく	安全を優先すべきではあるが、子どもの育ちに必要な関わりや経験を全て無くすことはできない。
これまでの保育をできる限り行っていく	これまでの活動は必要だと考えるから。
これまで通りは難しいので新しい保育を模索していく	子どもにとって大切な活動については工夫し、できる範囲で行いたい。
これまで通りは難しいので新しい保育を模索していく	これまで感じたことのない感覚なので。
これまでの保育を基本としながらも、変更、対策が必要などころなどを検討しながら進める	今後の感染状況がどうなるのかわからない状況の中で、大切にしていける保育の方針は変わらないものの、対策を講じていく上で、検討が必要となるところもあるのが現状である。日々の保育の質の向上、保育の工夫をしっかりと図りながらも、今後の状況を見ていきながら考えていく。
これまでの保育をできる限り行っていく	限られた施設環境でできることを考えていきたい。
これまで通りは難しいので新しい保育を模索していく	今後もコロナだけでなくインフルエンザも考えられるので、子どもや保護者がどうしたら楽しんでもらえるかを考えていきたい。
どちらも同じくらい考えていかなければならないため、どちらが強いと言えない	これまで、保育の中で大切にしてきたことは変えず、しかし新しいやり方を考えていく必要があるためどちらが強いと言えない。

これまで通りは難しいので新しい保育を模索していく	感染症対策を考えていると、どうしても“今までのようにできない”という感覚になり、保育そのものが消極的になるように思います。このコロナウイルスに影響される何年かは、保育士からすればただの通過点に過ぎないかもしれませんが、子どもたちにとっては二度と戻ってこない貴重な時間なので、“今だからこそできること”という考え方を常に持ち続けることが大切だと思います。
これまで通りは難しいので新しい保育を模索していく	親子参加など一緒に難しい 人数の制限や会場の広さなど考慮するため。
これまでの保育をできる限り行っていく	感染予防はしていくが、できるだけ子どもの遊びの保障をしてあげたいから。
これまで通りは難しいので新しい保育を模索していく	特になし。
これまで通りは難しいので新しい保育を模索していく	収束するまでは、これまで通りの活動は難しい。
これまでの保育を基本としながらも、変更、対策が必要などところなどを検討しながら進める	今後の感染状況がどうなるのかわからない状況の中で、大切にしていける保育の方針は変わらないものの、対策を講じていく上で、検討が必要となるところもあるのが現状である。日々の保育の質の向上、保育の工夫をしっかりと図りながらも、今後の状況を見ていながら考えていく。
これまで通りは難しいので新しい保育を模索していく	オンラインを使う子育て支援。
これまで通りは難しいので新しい保育を模索していく	まだまだコロナは収束しそうにないため。
これまで通りは難しいので新しい保育を模索していく	三密を避けながらの保育展開を考えている。
これまで通りは難しいので新しい保育を模索していく	新しい生活にあわせた内容の教育・保育が社会的にも求められている。
これまでの保育をできる限り行っていく	こどもが主体であることを尊重したいので。
これまで通りは難しいので新しい保育を模索していく	特にかわりない。
これまでの保育をできる限り行っていく	いろいろ模索しながら折り合いを付けながらこれまでの保育をできる範囲で行っていく。難しいところについては、その都度対応していく。
これまで通りは難しいので新しい保育を模索していく	今まで当たり前のように行っていた行事が、本当に子どもにとって必要なのか考えながら行っていく。
これまで通りは難しいので新しい保育を模索していく	コロナ感染防止のために出来る限り密にならない保育環境を整備、保護者や園児の登園の際の検温、発熱の際に解熱後24時間経過してから登園許可をすることで、感染防止に努めるため。
これまで通りは難しいので新しい保育を模索していく	記述なし

表4. 例年と園児の様子が違うと感ずること

例年と園児の様子が違うと感ずること（自由記述）

家で不安定になっているような場合があるようだ。
 6月から分散登園、7月から通常で、慣れるのに時間がかかっている。
 休みが多かったので、家にいたい、という子どもが多かった。
 コロナ関連の話題が、子どもたちからも聞かれる。
 保護者の影響により不安に思う子どもがでてきている。
 コロナウイルス感染症についての話題が子どもの中でも自然にでている。
 0歳児が、園長の私のマスクを外した顔を初めて見たとき、あっ！こんな顔をしてるんだ！と驚いていたとき。食事などを中心に異年齢での取り組みをしていたが、子どもたちの関わりが減り、クラス保育が色濃くなってしまった。食事の場面で、バイキング方式を取り入れていたが、取り止めてしまい、子どもたちが自分でできることも奪ってしまった。
 遊びの中の姿でも、コロナのニュース等で聞かれる言葉などが聞かれることもある。
 身体が分散されていない。ストレスがあるように感じる。子どもは親の不安が移る為家族支援が必要。
 特にない。手洗いやマスク着用など家庭の協力もあり定着している。
 手洗い、うがいの意識。
 遊びの中の姿でも、コロナのニュース等で聞かれる言葉などが聞かれることもある。
 テレビや大人の話で得た言葉が遊びのなかで出てくる。（新型コロナウイルス、密等）
 園自体の休園はしなかったもので、特に変化は少ないと感じている。
 休園が多くなったことから、これまで以上に幼稚園に登園することを楽しみにしている。
 手洗いを一生懸命行っている。
 乳児や障害児は、特に保育者の表情が大切な読み取りの育ちとなり、また乳児にとって食事を共に行うことが咀嚼の促しになるが、保育者が常時マスクを着用していることで、育ちに影響があると思われる。

表5. 例年と職員の様子が違うと感ずること

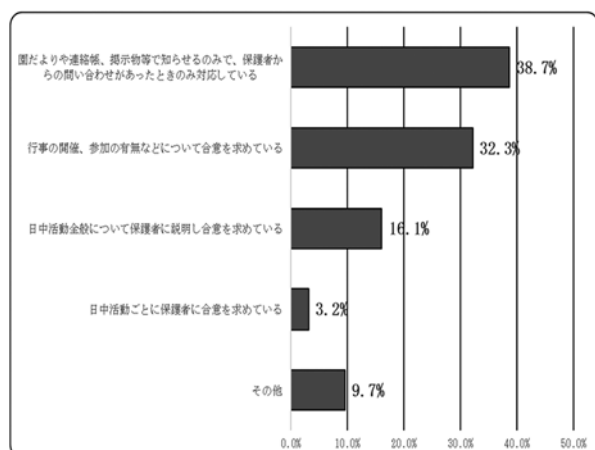
例年と職員の様子が違うと感ずること（自由記述）

日々新しいことにチャレンジしながら、忙しく過ぎた充実感。
 体調を崩さないように私生活でも我慢や制限をしているので、ストレスは溜まっていると思う。
 職員はみんなコロナウイルス感染症の影響で不安も感じていると思われますが、日々保育を模索しながら行っています。
 自分が感染することよりも、誰かにうつしてしまう怖さがあり、体調を崩し発熱したりすると、不安にかられる。
 どこまで対策を取ればよいのか不安に感じる職員がでてきている。
 神経を使う事が多くなり、精神的にも肉体的にも疲れている。
 上に書いた通りで、クラス保育が色濃くなってしまい、生活場面でも異年齢保育が減っている。
 行事等、中止となることも多くある中で、保育の中でいかに取り入れ、工夫していくか、というところで、検討する事が多く、配慮しなければならない点も多いというところで負担も大きい。
 行事等、中止となることも多くある中で、保育の中でいかに取り入れ、工夫していくか、というところで、検討する事が多く、配慮しなければならない点も多いというところで負担も大きい。
 園内消毒や行事や保育のやり方の変更など、いつにも増して業務が増え、皆、疲れを感じているように見える。また、休みであっても自粛を余儀なくされ、自分が罹らないようにと常に気を付けているためストレスを抱えている職員もいる。
 ・衛生管理に対する意識が高まった。
 ・マスクをつけることが当たり前になり、表情を見せることの大切さが薄れているかも知れない。
 ・自身が感染の媒体になるリスクがあることを自覚して、生活の仕方を意識するようになった。
 大きな行事がない分日々の保育にじっくり取り掛かれる。小学校が休校した際は休みを取る職員もいて調整が必要でありまたうつや心配性になった職員もいた。
 行事ができないことから新たな活動に対する活動意識・意欲をどう高めていくか。
 移ってはいけないと言うプレッシャー・ストレス。
 プライベートでリフレッシュする機会が少なく、張り合いが持てない様子がある。生活がマンネリ化している。
 当初、マスク着用に関して、呼吸や暑さの為に抵抗はあったが、最近は慣れてきた感がある。
 緊張感や不安感の中で保育をしている。休日にも緊張感があってゆったりした時間を過ごせていない。
 衛生状態に気を配ったり、活動を計画する時に密にならないよう考えたりしている。
 園児の感染防止のために、勤務時間すべて緊張感を持ちながら保育をしている。また保育者自身が感染しないために、公共機関を利用して出勤する職員は、入室の際に着替えをして保育に入る。そして万が一、保育者がPCR検査の対象となった場合に、保育者という立場上、園名の公開や誹謗中傷に怯えてしまう。

表6. 新型コロナウイルス感染症対策についての情報収集について

新型コロナウイルス感染症対策についての情報収集について (自由記述)

あらゆる手段で情報を集めている。専門家にも幾度もたずねている。
 ネット、新聞、テレビ、県からの文書など。
 テレビ、連合会からの連絡等。
 行政からのお知らせ・ニュース・インターネットなど。
 仙台市子供未来局から発出されるものに基づいて取得しています。
 新聞、ニュース、自治体からの情報。
 仙台市HP、仙台市保育課からの通知、全国ニュース、掛札先生等の見識者情報。(ネットより入手)
 ニュース・自治体の発信。
 自治体、こども園協会からなど。
 行政からの情報だけでなく、新聞等の情報などもこまめに確認している。
 行政からの情報だけでなく、新聞等の情報などもこまめに確認している。
 官公庁からの情報。
 自治体からの文書と姉妹園との保育の共有をしている。
 市からの連絡、市議会議員のツイッター、各取引業者。
 日々のニュース、新聞、法人からの連絡、またそれらを受けた園長からの指示伝達によって。
 新聞・メール・ネット・TV
 国と県からの情報。
 文部科学省、宮城県、仙台市子供未来局、仙台市私立幼稚園連合会等。
 保育の安全研究、教育センターの情報。
 県からのメールや通知。
 行政からのメールやニュース等。
 ニュース・公報・本社及び系列より。
 安全・危機管理、感染症専門の先生の情報サイトへ随時確認したり、系列園同士の情報交換などで最新の情報を確保できるようにしている。
 市教委からの情報をもとに、その他、地域の保育所、小・中学校からの情報交換で。
 県・市からの通達文。
 常にニュースを確認し、特に市内の感染者数や感染防止についても周知できるようにしている。



その他…同意書などで厳密に合意を図っているわけではないですが、年間の行事の在り方や方向性については、父母会の役員さんを通じて定期的にお伝えしています。受け入れ方の変更や、緊急時の対応については、掲示物や口頭で伝えるようにしています。これまでの園の対応についての問い合わせ等はありません。

行事を含め、登園を含め活動全般にわたって保護者に説明に合意を求めている。

何度もおたよりを出して園の方針を伝えている。

図19. 保護者との合意形成

表7. 保護者から園への問い合わせや相談、要望等

新型コロナウイルス感染症対策について、保護者から園への問い合わせや相談、要望等

最近は何もない。

感染者が出た場合どうするか。バスやクラス内の密をどう考えるか、など。

自粛中の保育料や副食費について。

子どももマスクをしなければいけないか？

コロナだからと全て中止するのではなく、替わりの行事を考えて欲しい。

消毒用アルコール等の使用が安全な環境で行えるようにして欲しい。(設置位置や場所等)

認可外保育園としての対応(休んだ場合等)は、仙台市認可園と同じか？

職場で濃厚接触者がでた時に、保育園利用や送迎についての相談など。

特に大きなことはないが、その都度、こまめにできる範囲で対応している。

表8. 新型コロナウイルス感染症対策に関わる対応で、工夫したこと・新たに導入したこと

 新型コロナウイルス感染症対策に関わる対応で、工夫したこと・新たに導入したこと（自由記述）

保護者の送迎の際に室内への立ち入りは遠慮していただいている。
 休園中の動画配信。
 頻繁に動画配信をする。
 Webカメラ、室内扇風機、新しい保健衛生用品。
 他園との情報交換や研修をオンライン活用する方向で実施。
 行事の見直し。
 少しでも密を減らすために、テーブル台数の増加、購入。
 玄関での保護者への引継ぎと子どもの引き渡し。
 食事時の透明フィルムのつuitate。
 次亜塩素酸水の精製機を導入、食事の際に対面にならない座り方にした、今まで以上に戸外での遊び時間を増やした。
 在宅勤務制度。
 空気清浄機導入、消毒の回数を多く、食事用の机購入（分散して食べるため）、業者を園内に入れない、非接触体温計の購入。
 額にあてるだけで検温できる器具を各保育室に配備した。
 毎日の健康観察カードの記入、毎朝の検温。
 自粛期間での担任等によるYouTubeの発信。
 休園中にweb 配信で先生方が歌や踊り、制作などを行った。
 給食やおやつを食べる時にパーティションを導入、距離を保った集まり。
 送迎時の受け渡し経路を工夫（保護者は園の室内には入れずに）、玄関前に消毒設置、保育者のマスク着用、マスクや消毒液の調達先の範囲拡大、行政からの支援により、空気清浄機1台・非接触型体温計1個・次亜塩素酸空間除菌脱臭機1台を購入した。
 保護者：送迎場所の限定や時間の短縮、送迎者1名まで、マスク着用、検温
 子ども：登園時の検温のやり取り、3歳以上児マスク着用
 職員：マスク着用、軽妙な体調不良は早めの休養実施
 園児、教職員の健康調査及び消毒。
 登園時の健康管理と、登園を控えてほしい基準を示し、理解を求めている。
 給食時の席の配置を間隔をとって向き合わないように、全員真ん中から外向きに。配膳・片付けは職員が。食事中以外マスクの着用、前後の手洗い。
 登園や降園の際に、保護者が保育室内に入室しないように、廊下での引き渡しなどを徹底している。また毎日、園児や職員の発熱や咳、病気の罹患状況をボードで掲示している。

表9. 新型コロナウイルス感染症対策全般で困難に感じていること

新型コロナウイルス感染症対策全般で困難に感じていること（自由記述）
<p>子どもにとっての日常が奪われること。 密にならざるをえない。 今までできていたことができないので、行事に限らず、どう対応していくか決めるのに時間がとられる。 見えないものだけに、対応に苦慮している。 状況が目まぐるしく変わるので、それに合わせて対応や保育、行事等を変えていかななくてはならず、検討事項や作成文書がたくさんある。 物資不足が読めない。必要不可欠な厨房等で利用していた物も・・・ （現在は使い捨て手袋、液体石けんの入手困難。高額でも購入さえできれば） 児童・保護者・職員の体調不良等への対応。 （原則は周知しているが、個々の状況等への対応が難しい） 消毒を含め、感染予防対策がどこまでやったら良いのか常に不安である。 密にならない工夫が、子どもなのでできずらい。 どこまで行えば、正解なのかわからない。その苦しさの中で、運営していること。 今までは保護者や友達とのふれあいができるような活動を取り入れて、大事にしてきたが、それに代わるものを考えたり、感染対策をしながら行っていかなければならない。 保護者参加の行事ができないため、様々な園からの説明や保護者の相談をゆっくりと受けることが難しく、今後もその状態が続くと思うのでどう対応していくか課題である。 職員の行動制限や、それに伴うストレスへの配慮に難しさを感じることも多い。 大きな困り感はないが集まることが出来ないもどかしさ。変えなくてはならない発想の豊かさが求められる。幼児期は触れ合って育つことを伝えているので感染のリスクは保育士も保護者も感じているが預けている現状がある。目の前のことを職員一同で考えていく。受け入れていきながら保育をしていかなければならない。 幼稚園での活動はどうしても3密は避けられない。発達段階に応じてうがい・手洗い・手指消毒など身につくまで繰り返し行っていくしかない。 密にならないように考えても、自由遊びなどでは向かい合いを避けられない。 新しいウイルスなので、情報が入っても正しいかわからないこと。 ソーシャルディスタンスを常時保つことが難しい（面積上、活動上）、感染予防を考えていくとキリがないこと。 熱中症予防との共存（マスク着用等）、感染者及び無症状者との接触の可能性、終息が見えない不安。 消毒の徹底とマスクの着用徹底。 登園自粛の基準の保護者への理解・お願い ・発熱した場合、風邪なのか熱中症なのかコロナなのか判断できない。 ・コロナ対策をすることで、子どもが育っていく上で大切な事を奪っているのではないかな不安になる。 保育園という0歳児から在籍している施設において、園児がマスク着用は難しく、距離を取りながら遊びを行うことが現状困難である。常に濃厚接触の場である。</p>

4）生活場面での感染予防

保育中の換気は図11のように、「時間を決めて定期的に換気している」が最も多く38.7%で、「常に窓を開けている」が29.0%、「常に窓とドアを開けている」が25.8%と続いた。

日常の保育活動で控えている活動については、図12を見ると「プールでの活動」が最も多く67.7%、次いで「調理」が48.4%、「外部講師の教室」が38.7%と続いた。

屋外で一斉活動を行う際の新型コロナウイルス感染症対策としては、図13のように「活動する人数に制限を設けている」、「一人ひとりの間隔を広く取るよう注意している」が最も多く38.7%で、「活動する時間に制限を設けている」、「子どもが対面にならないように

配慮している」と続いた。一方、屋外で自由遊びを行う際の新型コロナウイルス感染症対策は、図14のように、「特になし」が最も多く38.7%となり、「活動する人数に制限を設けている」、「活動する時間に制限を設けている」と続いた。

室内で一斉活動を行う際の新型コロナウイルス感染症対策としては、図15のように「一人ひとりの間隔を広く取るよう注意している」が54.8%と最も多く、「活動する人数に制限を設けている」、「活動する時間に制限を設けている」と続いた。また、室内で自由遊びを行う際の新型コロナウイルス感染症対策は、図16のように「一人ひとりの間隔を広く取るよう注意している」が最も多く41.9%となり、「活動する人数に制限を設けている」、「特になし」と続いた。

新型コロナウイルスの影響により開催を中止もしくは今後中止を検討している行事については図17のように80.6%の施設があると回答した。中止もしくは中止を検討している行事については表2のように保護者が参加する行事が多い傾向であった。

今後の保育方針については、図18のように半数を超える施設が「これまで通りは難しいので新しい保育を模索していく」と回答した。方向性は同じでも、新型コロナウイルス感染症対策に努めつつ、これまで通りの保育を行うのには無理があることで悲観的になっている様子や、反対にこの状況でもできることやこの状況だからできることは何かを前向きに考えている様子もあり、現状の捉え方が異なっていた。

例年と園児の様子が違うと感じることについては、表4を見ると感染予防についての意識や行動に違いがみられるようである。また、「乳児や障害児は、特に保育者の表情が大切な読み取りの育ちとなり、また乳児にとって食事を共に行うことが咀嚼の促しになるが、保育者が常時マスクを着用していることで、育ちに影響があると思われる」と子どもの育ちを心配している保育者の姿も伺えた。

例年と職員の様子が違うと感じることについては、表5を見ると「ストレス」、「不安」、「疲れ」、「緊張」等、マイナスな印象が強い。

新型コロナウイルス感染症対策についての情報取得は、表6から仙台市を中心に仙台市私立幼稚園連合会、宮城県、文部科学省と複数からこまめに収集している様子である。

保護者との合意形成については、図19のように、「園だよりや連絡帳、掲示物等で知らせるのみで、保護者からの問い合わせがあったときのみ対応している」が38.7%で最も多く、「行事の開催、参加の有無などについて合意を求めている」が32.3%、「日中活動全般について保護者に説明し合意を求めている」が16.1%で続いた。

表7は保護者から園への問い合わせや相談、要望等についてだが、何件か記述があったものの、記述のない園が多く、現在は特にない園が多いようである。

新型コロナに関わる対応で、工夫したこと・新たに導入したことについては、表8のように検温や消毒の導入や工夫が多かった。

新型コロナウイルス感染症対策全般で困難に感じていることについては、表9のように、密が避けられないと感じていたり、感染対策をどこまで講じればよいかわかりにくかったりしていることや、保護者に関することをあげる施設が多かった。

4. 考察

1) 属性に関して

保育園は乳幼児の健やかな育ちを保障する場として、国としても看護師の配置を促進しているものの、今回の調査ではまだまだ不十分であることがうかがえる。現場における看護師の役割は子どもの健康を守るにとどまらず、保育士や調理師等の職員の健康管理、衛生指導、そして子どもの家族の健康にまで配慮しており、最近ではアレルギーへの対応や、障害を持つ子への対応も必要とされるようになってきている。

今回の新型コロナウイルス感染症のような未知のウイルスへの対応について、各園の保育士のみで予防策を講じていても非常に心もとなく、不安なまま保育に当たらざるを得ない状況に陥るため、今後も保育現場では看護師の需要は高まるものと考えられる。このような専門職が常駐することは、保育者や園児、そして保護者の抱えるストレスや不安、疲れ等を軽減する一助となり得る。平成27年に厚生労働省が出した「保育所等における准看護師の配置に係る特例について(通知)」⁴⁾によって、看護師だけでなく准看護師も保育士として配置が可能となったため、保育士不足の解消とともに感染症対策の専門的知識を有した人材を積極的に配置すべきである。また、今回は調査しなかったものの、幼稚園においても養護教諭は「置くように努める職員」に留まっているため、必置職員に含まないにしても、地域の小学校と連携し、養護教諭の協力を得ることで学校保健活動の充実を図るべきであろう。

2) 消毒に関して

現時点において、全ての園が施設の消毒を行っており、半数が日に2回以上行っていた。また、消毒を実施する場所も多岐にわたっており、新型コロナウイルス感染症対策として非常に重要なことではあるが、従来の業務に加え、行わざるを得なくなったものであるため、日々の保育者の業務を圧迫している可能性がある。

文部科学省による「学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル」⁵⁾では、消毒を実施する場合には、極力、教員ではなく、外部人材の活用や業務委託を行うことによって、各学校における教員の負担軽減を図ることが重要としている。しかし、外部委託をするための助成や補助、ボランティア等を整備しなければ、この状況は変わらないものと思われる。

また、厚生労働省では、消毒の方法として、「水及び石鹸による洗浄」、「熱水」、「アルコール消毒液」、「次亜塩素酸ナトリウム」、「手指用以外の界面活性剤」、「次亜塩素酸水」を推奨している⁶⁾。当初はアル

コール消毒液が手に入らず、様々な薬品を使用していたと考えられるが、現在は供給も安定し、今回の調査では、使用する薬品も3種類に絞られている。さらに、対象物によって方法を変える配慮ができる等、入手についての不安はなく、選択の余地もあるようである。

3) マスク着用に関して

保育者のマスク着用については、「義務付けている」と「着用するようお願いしている」を合わせると8割を超えたが、今後は活動場面や夏場の熱中症対策等を鑑み、外すタイミングを考える必要がある。コロナ禍においては保育中のマスク着用を基本とし、季節や活動場面を考慮しながら、外すことはもちろん、フェイスガード、ゴーグル、マウスシールド等の使い分けや、透明マスクを導入すべきである。歌や英語の活動の際、口元を確認することができたり、保育者の体調管理にもつながることが期待できるとともに、今回の意見にあった乳児や障害児が他者の表情を読み取る力が育まれないのではという懸念も払拭できると考える。

子どものマスク着用に関しては、乳児にマスクを着用してもらう現実的な難しさもあり、義務付けていない園が半数を超えた。また、マスクを取りたがる子どもへの対応から読み取れるように、園庭や食事の際は外し、屋内では着用するといったルールを設けて対応している園もあった。

保育者自身が新型コロナウイルス感染症の感染源、感染経路になってはいけないという責任感と園内で新型コロナウイルス感染症の罹患者を出さないようにと各園で独自のルールを模索しているのが現状である。今後はこの各園での取り組みを集約し地域の園で共有することが望まれる。

4) 生活場面での感染予防に関して

このコロナ禍において換気は当然のこととして定着していると考えられるが、冷暖房を使用する際は換気を怠りがちになるため注意をする必要がある。また、室内での活動においては換気以外にも、密集や密接を避けるために活動人数を制限したり、園児同士の間隔を広く取るよう配慮したりする園が多くみられ、屋外での活動よりも注意を払いながら保育を行っていた。感染対策をする上で多少の制限は仕方ないかもしれないが、「例年と職員や園児の様子が違うと感じること」でも挙げられているように、今後、職員、園児のストレスも考慮しなくてはならないだろう。この点においても前述したように看護師や養護教諭を積極的に配置すべきである。

今回の調査の中で、プールでの活動や調理をはじめ、保護者参加型の行事や園外との交流等、今まで当たり前に行っていた保育活動や行事、季節毎の遊びに関して、実施を断念した園が多かった。感染リスクと子どもに必要な体験を天秤にかけながら各園手探りで保育を行っているのであろう。一つ一つの活動が子ども（の育ち）にとっては大切なものであるという認識があるからこそ、実施できるできないはもちろん、どうすれば実施可能なのか職員会議を行っている様子を容易に想像することができる。従来通りに実施するためにはどうすればよいのか、若しくはそれらに変わるモノコトは何かあるのか、新型コロナウイルス感染症対策についてどこまで配慮すればよいのか等、保育者は非常に苦慮している様子であり、現状の不安や負担を軽減するためには、この点からも園の垣根を越えて情報共有を進めるべきであろう。

保護者に対しては対応が分かれ、「園だよりや連絡帳、掲示物等で知らせるのみで、保護者からの問い合わせがあったときのみ対応している」が最も多かったものの、「行事の開催、参加の有無などをについて合意を求めている」や「日中活動全般について保護者に説明し合意を求めている」と回答した園も少なくなく、どの園も保育活動について何らかの形で保護者と合意形成を図っていることが分かった。前回の保育所保育指針、幼稚園教育指導要領、認定こども園保育・教育要領では「保護者に対する支援」が強く謳われるようになり、現行のものでは「子育て支援」に改められ、保護者と共に喜び合うことを重視して支援を行うとともに、地域で子育て支援に携わる他の機関や団体など、様々な社会資源との連携や協働を強めていくことが求められている。

新型コロナウイルス感染症の影響によって、社会状況が目まぐるしく変化する現在において、安心かつ安全な保育を展開し、保護者との信頼関係を構築するためには、その都度、園から保護者に対して丁寧な説明を行う必要があるだろう。しかし、コロナ禍においても子どもの健やかな成長を期待し、子どもの体験を守るためには、現場の保育者だけでその重責を負うは難しい。このような状況下だからこそ、保護者や家庭のみならず、行政や地域の団体、理学療法士や作業療法士、言語聴覚士等、福祉系分野ではない医療系の専門家と各園との接続、運動や表現の専門家等とも連携することで、多忙となっている保育者が子どもと向き合う時間を確保することにつながったり、低下している地域の教育力の向上に寄与したりするはずである。また、これに加え、各園での取り組みを共有することが保育の質の確保、保育者の負担軽減に繋がると期待で

きる。

そして、現在できる限りの対応を行っていることが、新型コロナウイルス感染症の影響が落ち着いた後の園と保護者の信頼関係に影響を及ぼすことが考えられる。

また、新型コロナウイルス感染症に関する情報収集に関して、殆どの園が自治体、新聞、ニュースをはじめとする複数の媒体からこまめに得つつ、日々の保育を営んでいる様子が伺えた。新型コロナウイルス感染症の影響によって、社会情勢は日々目まぐるしく変化しており、行政等の指示を待つのではなく、各園とも積極的に情報収集し、対応にあたらざるを得ない。先にも上げた「学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル」では、各地域によって新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況が違うということもあり、「地域ごとの行動基準」として記載されていることや「今後の感染状況の推移や最新の科学的知見を反映して適宜見直すことを予定しています」と明記されていることから国として統一した指針を出すには至っておらず、今後も各園で独自に情報を得るという状況からの変化にあまり期待はできないだろう。

今回の調査では、情報媒体の中に姉妹園・系列園などは見られたが、他の園ということは見られなかった。今後は園の垣根を越えた地域レベルでの情報共有が重要となってくるであろう。

新型コロナウイルス感染症の問題が解決しない現状を鑑みると、同業種だけでなく、業種を超えて各園の日中活動の工夫等の情報やグッドプラクティスを共有し、地域単位で子どもの最善の利益を考えなければならないと考える。

5) インターネット等の活用に関して

今回、新型コロナウイルス感染症に関わる対応で、工夫したこと・新たに導入したことは何かという問いにおいて、検温や消毒以外に、webや動画配信等、インターネットに関連するキーワードが複数表出した。「新型コロナウイルス感染症への対応のための幼稚園等の取組事例集」⁷⁾でも紹介されている「動画配信」を複数の園が休園中等に行っていたり、園内への立ち入りを制限した分、webカメラを設置し、保育中の様子を保護者へ配信したり等、インターネットを介して保育サービスを強化した園も多いようである。

日本国内も7月に入り、再び新型コロナウイルス感染症の感染が拡大し、今後もウイルスと共存していくことになる可能性は少なくない。このような状況下において保育所や幼稚園、認定こども園等の利用を自主的に控える家庭や在宅勤務が長期化し、仕事と育児の

両立が難しい家庭では、オンライン保育のニーズが高まっている。しかし、オンデマンドの動画配信では「子ども主体の保育」は難しいだろう。動画配信故に応答的な関わりはなく、子ども一人ひとりの対応は出来ない。また、オンラインを活用した「同時双方向型のコミュニケーション」に関しては、子ども一人ひとりと関わることはできるだろうが、保育の場所となり得るかは検証が必要である。

5. まとめ

1) 本調査においては、以下のことが明らかになった。

- ①各園で新型コロナウイルス感染症対策を考え実施しているため、対応には幅がある。
- ②新型コロナウイルス感染症への対応を決定するための情報は各園で複数の媒体から積極的に収集している。
- ③幼稚園・保育園・認定こども園など業種を超えた情報共有はなされていない。
- ④今まで通りの保育を営むことに難しさを感じている園が多い傾向がある。

2) 今後について

今後も新型コロナウイルス感染症対策は、各園、各地域単位で対応していかなければならないことが予想される。また、幼稚園・保育園・認定こども園など業種を超えての情報の共有がなされていないことから、同一の市町村だけではなく、近隣の市町村や隣県との情報を共有していくことも重要になってくると考える。

そこで今後は、より保育の日常への配慮・工夫などを業種・地域を超えて情報を共有できるように、調査内容と調査範囲を広げるとともに、保育者養成校としては各園をつなげるパイプ役を担いたい。

引用文献

- 1) Johns Hopkins University : COVID-19 Dashboard by the Center for Systems Science and Engineering (CSSE) at Johns Hopkins University (JHU)
<https://gisanddata.maps.arcgis.com/apps/opsdashboard/index.html#/bda7594740fd40299423467b48e9ecf6>
- 2) 新型コロナウイルス感染症対策専門家会議：新型コロナウイルス感染症対策の状況分析・提言 2020年5月4日
- 3) 橋浦孝明・岩村聡：「被災地福島県いわき市における戸外遊びとスポーツ環境の現状について」2013年度 笹川スポーツ財団研究助成 研究成果報

告書 2014 pp289-295

4) 厚生労働省：「保育所等における准看護師の配置に係る特例について（通知）」 2015

5) 文部科学省：「学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル～「学校の新しい生活様式」～」 2020年9月3日

6) 厚生労働省・経済産業省・消費者庁：「新型コロ

ナウイルスの消毒・除菌方法について」 https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/syoudoku_00001.html

7) 文部科学省：「新型コロナウイルス感染症への対応のための幼稚園等の取組事例集」2020年5月13日

SUMMARY

Mikio ODA,

Takaaki HASHIURA:

Current Status of Countermeasures against the COVID-19 at Childcare Sits in Sendai City (1st report)

Childminders are having a hard time now Because it is affected by COVID-19. Therefore, we conducted a questionnaire survey of kindergartens, day care centers, and certified children's centers around Sendai city. We created and summarized the current situation of childcare, correspondence, ingenuity, consideration, etc. As a result, the following became clear.

- ① There is a wide range of measures against COVID-19.
- ② Information on COVID-19 is actively collected from multiple media.
- ③ Information is not shared across industries such as kindergartens, day care centers, and certified children's center.
- ④ Many infant facilities find it difficult to carry out childcare as before.

In the future, we will expand the content and scope of the survey so that information can be shared across regions and industries with consideration and ingenuity. In addition I want to connect any infant facilities.

(M. ODA; Uyo Gakuen College

T. HASHIURA; Correspondence Derision Odawara Junior College)

新型コロナウイルス感染症影響下における保育の実態について（質問内容）

施設概要

問 1. 所属施設について
公立保育所・私立保育所・公立幼稚園・私立幼稚園・認定こども園・その他

問 2. 園児数について
11 人未満
20 人未満
20 人以上 60 人未満
60 人以上 120 人未満
120 人以上 200 人未満
200 人以上

問 3. 看護職の配置
あり・なし・その他

消毒に関して

問 4. 施設の消毒はしていますか？
している・していない・その他

問 5. 問 4 で消毒を「している」を選択した方はどの範囲を消毒していますか？（複数回答可）

机、椅子、ドアノブ、スイッチ、手すり、絵本、室内用玩具、はさみ等工作道具、クレヨン等筆記用具、屋外固定遊具、屋外用玩具、下駄箱、トイレ、その他

問 6. 問 4 で消毒を「している」を選択した方はどの程度の頻度で消毒していますか？
園児登園前 1 回・園児降園後 1 回・日に 2 回・日に 3 回以上・その他

問 7. 問 4 で消毒を「している」を選択した方は消毒時の薬品は何を使用していますか？
エタノール・次亜塩素酸ナトリウム・加速化過酸化水素水・次亜塩素酸水・イソプロパノール・フタラール・グルトアラール・その他

マスク着用に関して

問 8. 保育者のマスク着用状況について
義務付けている・着用するようお願いしている・義務付けていない（特に何も指示はない）・その他

問 9. 保育者のフェイスガード着用について
常装着している・活動によりしている・していない・その他

問 10. 子どものマスクの着用状況について
義務付けている・着用するようお願いしている・義務付けていない（特に何も指示はない）・その他

問 11. 問 10 で子どもにもマスクの着用を「義務付けている」もしくは「着用するようお願いしている」とお答えの方は、活動中に子どもはマスクを取りたがると思いますが、どのような対応をしていますか？（自由記述）

生活場面の感染予防対策に関して

問 12. 保育中に換気はしていますか？
常に窓を開けている
常に窓とドアを開けている
時間を決めて定期的に換気している
していない
その他

問 13. 日常の保育活動で控えている活動は（複数回答可）

クラスで一斉に歌を歌う
大きな声を出す
園外活動
外部講師の教室
園庭固定遊具の使用
公園遊具の使用
調理
歯磨き
集まって行う製作
プールでの活動
その他

問 14. 屋外で一斉活動を行う際に新型コロナウイルス感染症対策で取り組んでいることがあれば教えてください。（複数回答可）

一人ひとりの間隔を広く取るよう注意している
活動する人数に制限を設けている
活動する時間に制限を設けている
活動する道具（遊具）に制限を設けている
子どもが対面にならないように配慮している
特になし
そもそも一斉活動を行わない
その他

問 15. 屋外で自由遊びを行う際に新型コロナウイルス感染症対策で取り組んでいることがあれば教えてください。（複数回答可）

一人ひとりの間隔を広く取るよう注意している
活動する人数に制限を設けている
活動する時間に制限を設けている
活動する道具（遊具）に制限を設けている
子どもが対面にならないように配慮している
特になし
その他

問 16. 室内で一斉活動を行う際に新型コロナウイルス感染症対策で取り組んでいることがあれば教えてください。

(複数回答可)

- 一人ひとりの間隔を広く取るよう注意している
- 活動する人数に制限を設けている
- 活動する時間に制限を設けている
- 活動する道具(遊具)に制限を設けている
- 子どもが対面にならないように配慮している
- 特になし
- そもそも一斉活動を行わない
- その他

問 17. 室内で自由遊びを行う際に新型コロナウイルス感染症対策で取り組んでいることがあれば教えてください。

(複数回答可)

- 一人ひとりの間隔を広く取るよう注意している
- 活動する人数に制限を設けている
- 活動する時間に制限を設けている
- 活動する道具(遊具)に制限を設けている
- 子どもが対面にならないように配慮している
- 特になし
- その他

問 18. 新型コロナウイルスの影響により開催を中止もしくは今後中止を検討している行事はありますか？

ある・ない

問 19. 問 18 で「ある」を選択した方は中止した行事や今後中止を検討している行事と時期をお答えください。

(自由記述)

例) 運動会 6月

問 20. 現状長い期間新型コロナウイルス感染症対策を講じながら保育を行わざるを得ない状況ですが、今後の保育の方針としてどちらの考えが強いですか？

- これまでの保育をできる限り行っていく
- これまで通りは難しいので新しい保育を模索していく
- その他

問 21. 問 20 で選択した理由を教えてください。(自由記述)

問 22. 例年と園児の様子が違ふと感じることがあれば教えてください。(自由記述)

問 23. 例年と職員の様子が違ふと感じることがあれば教えてください。(自由記述)

問 24. 新型コロナウイルス感染症対策についての情報はどのように取得していますか。(自由記述)

問 25. 新型コロナウイルス感染症対策を考慮した保育活動を営む上で、保護者との合意形成はとっていますか？

日中活動全般について保護者に説明し合意を求めている

日中活動ごとに保護者に合意を求めている

行事の開催、参加の有無などについて合意を求めている

園だよりや連絡帳、掲示物等で知らせるのみで、保護者からの問い合わせがあったときのみ対応している

特段請していない

その他

問 26. 新型コロナウイルス感染症対策について、保護者から園への問い合わせや相談、要望等があれば具体的に教えてください。(自由記述)

問 27. 新型コロナウイルスに関わる対応で、工夫したこと・新たに導入したことは何ですか？(自由記述)

問 28. 新型コロナウイルス感染症対策全般で困難に感じていることを何でもお書き下さい。(自由記述)